

調査研究活動実績

氏名 依光晃一郎

今年度は、高知県政の重要課題について、幅広い視点から調査しました。また尾崎県政から浜田県政へと知事が交代する年となり、尾崎県政12年間の分析と、引き継ぐべき組織運営について調査しました。また観光振興、行政管理、市町村行政、南海トラフ地震対策という視点を重視しました。

本年度（31年度）の政務調査研究に関する主な活動の実績は次の通りです。

1 尾崎県政12年間の分析について

- ・産業振興計画作成時の組織作りという視点
- ・食品加工業の振興と人材育成の取り組みという視点
- ・SWOT分析とマトリックス分析の活用という視点
- ・「高知家」コンセプトの成果という視点
- ・東京事務所の役割や機能の変化という視点
- ・商工会や商工会議所への支援という視点
- ・山田高校の新学科開設という視点

2 浜田県政が目指す県政の姿について

- ・SWOT分析をどう生かすかという視点
- ・県庁の組織運営という視点
- ・地域支援企画員の位置付けという視点
- ・龍河洞の再整備という視点
- ・社会人経験者採用という視点
- ・職場ドックの取り組みという視点

3 市町村行政について

- ・市町村の職員数に関する現状という視点
- ・市町村職員の採用試験を共通化という視点
- ・市町村が抱えるマンパワーや専門職員の不足という視点
- ・県から市町村への人的サポートという視点
- ・システムの共同利用、自治体クラウドの導入という視点
- ・広域周遊観光におけるポイント発行システムという視点

4 南海トラフ地震対策について

- ・N-net の効果という視点
- ・緊急地震速報受信機の整備状況という視点
- ・地震発生後の職員の参集ルートの事前検討という視点
- ・初動対応の人員確保という視点
- ・災害対策本部職員の交代体制という視点
- ・災害対策本部のスペースという視点
- ・総合防災情報システムの今後のバージョンアップという視点
- ・災害時の問合せ対応の自動化という視点
- ・応急活動機関が体を休めるスペースという視点
- ・災害時における高知自動車道の緊急開口部の活用という視点
- ・市町村の災害廃棄物仮置き場の確保という視点
- ・土木事務所ごとの災害時に発生する土砂の処分場の確保という視点